

## 土壌理化学性改善による青果用かんしょの収量，品質の向上

[要約] 淡色黒ボク土のかんしょ栽培畑圃場では，下層土の土壌可給態リン酸含量が低く耕盤の形成がみられる。下層土の可給態リン酸含量の富化，オガクズ牛ふん堆肥投入，深耕ロータリの組合せによる土層改良によりかんしょの収量，品質は向上する。

茨城県農業総合センター農業研究所

### 1. 背景・ねらい

青果用かんしょは本県で約 6,000ha 作付けされ，県の主要畑作物として位置づけられている。しかし，消費低迷や食味評価が劣るなど取引単価が低迷しており，高品質化による商品性，取引単価の向上が求められている。そこで淡色黒ボク土において土壌理化学性改善によるかんしょの収量，品質向上について検討した。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) かんしょ栽培の行われている淡色黒ボク土畑圃場は，下層土に耕盤が形成され，土壌可給態リン酸含量が 10mg/100g 以下の圃場が多くみられる。そこで苦土重焼リンを用いて可給態リン酸の 10mg/100g への改良とオガクズ牛ふん堆肥 300kg/a の全面散布と深耕ロータリ施行により下層土の土壌理化学性の改善を図る。
- 2) 土壌可給態リン酸含量は，圃場 1，圃場 2 とともに改善前には低かったが，改善により 10mg/100g 以上に高まった。圃場 1，圃場 2 とともに深さ 10 ~ 20cm 付近にみられた耕盤は，深耕ロータリ施行後には深さ 40cm 付近までみられなくなる（表 1，図 1）。
- 3) 改善区の上いも重は，圃場 1，圃場 2 とともに慣行区より 10 ~ 20% 上回る（表 2）。
- 4) 改善区は A 品率が圃場 1，圃場 2 とともに慣行区より 26 ~ 53% 上回り，B，C，丸品イモなどの不良品が少なくなり，改善効果が認められる（表 2，図 1）。
- 5) 以上のことから，深さ 40cm 付近までの可給態リン酸含量を 10mg/100g 以上に土壌改良し，オガクズ牛ふん堆肥を投入して深耕ロータリを行うことで青果用かんしょの収量，品質は向上する。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 行方台地の淡色黒ボク土での 5 月下旬挿苗，10 月掘取りにおける試験結果である。
- 2) 供試品種（系統）はベニアズマ (KA-7)，施肥及び病害虫防除は麻生町現地農家慣行で行った。
- 3) 可給態リン酸の改善は作土及び作土下層のリン酸含量が 10mg/100g 以下の場合行う。



